

「メール力 UP 講座」を開催しました

男女共同参画推進室ワークライフバランス・サポートセンターでは、2011 年度第 8 回交流事業として、2 月 7 日に西早稲田キャンパス 55 号館第二会議室において、「あなたは、メールを慎重に書いていますか? 『メール力 UP 講座』」を開催しました。研究に仕事に欠かせないメールの諸問題について、根本的な考え方を理解し日々のメール作成に生かしていただくという趣旨です。

本学メディアネットワークセンター非常勤講師で、日本語学者・国語辞典編纂者の飯間浩明先生を講師として、41 名の幅広い年代層の参加者が、“つまるところ、メールの諸問題は、言葉が伝わらない問題である、ルール・マナーを守ればいいメールが書けるわけではない”という提起から、理解を深めました。“どう誤解されうるか”を常に考えることが問題解決への早道だと、飯間先生は指摘され、“事実”(トラブルの状況や面会の日時等)と“感情”(謝罪や感謝等)が伝わっているか否かを、メール事例を駆使して、参加者に投げかけました。

7つのメール事例<学生が指導教員にレポートの書き方を尋ねる、学会シンポ事務方から参加者への受付受理、編集者から執筆者への督促、学生から指導教員への質問回答のお礼、企業から講師への講演依頼、パーティのドタキャンのお詫び、企業への新規取引申込みのお断り>を題材に、どこが問題かを、参加者への質問で探っていきました。事実を伝え損なわず誤解なく示すための件名・尚書き・記書き・過不足ない前置き等の工夫、残念な気持ち・お詫び・感謝等の感情を伝える場合の表現への留意点が、対話形式で解説され、参加者は熱心にペンを走らせます。

また、お詫びメールの三要素(自分の行為・相手への影響・お詫びの気持ちの3点を顧慮した言葉)や、思いやりのある決まり文句(助かります、承知いたしました、なにとぞよろしく願います等)の提示には、大きく頷く姿がみられました。

最後に、編集者から執筆者への原稿督促のメールに「執筆者として遅筆を詫び原稿完成日を伝える返信を5文程度で作成」との課題に全員で取り組み、数例が先生から講評されました。

講座 1 時間半の締め括りは、事実がわかるか感情を受けとめてもらえるかに注意しながら伝えるメールを書いてほしいと結ばれました。

終了後、多くの感想をいただき、メールで言葉を伝える大切さが認識できた、意見を聞いたり書く機会も設けられ参加者も一緒になって考えられた、基本・応用・実践とステップが分かれています。すんなりメール力が身についた、誤解を生まないか、事実や感情が伝わっているかという基本線から考えるスタンスに同感した、なかなか学ぶことのできないテーマで非常に勉強になった、お詫びメール・お詫びの文言は参考になった、先生ともっと双方向のコミュニケーションがしたかった、といった声が寄せられました。

講義部分の DVD 収録(約 70 分)がサポートセンターで視聴できます(月～金曜日の 12～17 時。事前にメール support-koryu@list.waseda.jp にて希望日時を予約)。ご利用ください。

